

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成27年10月23日(金)5校時  
 児童 1年2組 男19名 女15名 計34名  
 指導者 山根 奈緒

1 個人課題 叙述をもとに想像を広げながら読むことのできる児童の育成  
 ～授業の視覚化の工夫を通して～

2 単元名 くらべて読もう  
 教材名 「じどう車くらべ」

3 単元について

(1)児童について

児童はこれまでに、「くちばし」の学習や「うみのかくれんぼ」の学習を通して、説明文の基本的なパターンである「問い」と「答え」の文型を学んできた。学習を通して、挿絵と文を照らし合わせながら書かれていることの大体を読み取ることを経験してきた。その中で、文末表現から「問い」と「答え」を見つけることは慣れつつある。しかし、語彙の量や想像を広げながら読む力については個人差が大きい。また、内容を読み取るにあたって、大事な文や言葉を見つけることのできない児童もいる。音読が十分にできない児童もいることから、声に出して読む活動を取り入れる。加えて、文末表現に着目する学習を繰り返しながら大事な言葉を見つける力を身に付けさせていく。

(2)単元について

- ・本単元は、「知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読むことができる」ことを主なねらいとする。
- ・本単元は、自動車の仕組みなどについて説明した文章から必要なことを書き抜き、自動車図鑑を作るという活動に取り組む。いろいろな自動車の「しごと」と「つくり」がわかる文章を見つけ、絵や写真を参考にしながら内容の大体を読む能力を養うことをねらいとしている。
- ・本時に関わる指導事項は、「1 時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を読むこと」「力 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと」である。

(3)指導計画(全12時間)

- ・第一次 学習の見直しをもつ。 2時間
- ・第二次 「じどう車くらべ」を読み、「しごと」と「つくり」を比べながら読む。 4時間(本時 4/4)
- ・第三次 自動車について説明されている文章を選んで読み、「しごと」と「つくり」を考えて書く。 6時間

4 本時の指導(6/12時間)

(1)目標 本文や挿絵からクレーン車の「しごと」と「つくり」とらえることができる。

<読む能力>

(2)具体の評価規準

観点別評価目標	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (支援の手立て)
挿絵や叙述をもとに、クレーン車の「しごと」と「つくり」とらえることができる。	クレーン車の「しごと」と「つくり」について「そのために」を使い、自分の言葉で書きまとめている。	クレーン車の「しごと」と「つくり」について「そのために」を使って書いている。	板書に沿って「しごと」と「つくり」を書き抜かせる。

(3)個人課題や共通課題との関わり

指導にあたっては、事柄の順序を考えながら大体の内容を読む力を身に付けさせるために、問いの文と答えの文の関係をとらえたうえで、答えにあたる「しごと」と「つくり」を文末表現に着目させながら読み取っていく。叙述をもとに読む力を育てる学習を展開するために次のような手立てを工夫する。

①目的意識を明確にさせる

・「じどう車ずかん」を作るという言語活動を意識させながら学習を進めることで、「しごと」と「つくり」を読み取ることの意欲付けを図る。

②挿絵の活用

・挿絵と文章を対応させながら想像を広げ、叙述に沿った読みができるようにする。

③板書の工夫

・学び合いで深めた読みを構造的に板書に残すことで、紹介された「しごと」や「つくり」をまとめ、「そのために」の役割を明らかにできるようにしていく。

(4)展開(次頁)

じどう車くらべ

いい1 どんなしごと  
いい2 どんなつくり

クレーン車の「しごと」と「つくり」について  
まとめよう。

クレーン車は  
(しごと)

おもいものを「つり上げる」しごとをしています。

そのために、  
(つくり①)

「しようぶなうで」が、  
「のびたりうごいたり」するように、  
つくってあります。

(つくり②)

車たいがかたむかないように、  
「しっかりしたあし」が  
ついています。



クレーン車	トラック	バス じょうよう車	
おもいものを つり上げる	にもの はこぶ	人をのせて はこぶ	とこ
じょうぶなうで	ひろい ただい	ひろい せき	くくり
あし しっかりした	たか さんの タイヤ	たか なま	くくり

(図鑑)

指導展開

一 前時の学習内容を想起する。

三分

○ 問いの文を確認し、乗用車やバス、トラックの「しごと」や「つくり」についてまとめてきたことを想起させる。

二 学習課題を把握する。

二分

○ クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめるという本時の課題を確認し、自動車図鑑をつくるという言語活動を意識させる。

☆ 言語活動へ向けてクレーン車の説明を書くという目的意識をもたせる。(視点一)

(視点一)

三 学習場面を確認し、音読する。

三分

○ 大事な言葉をみつけながら読むことを意識させる。

☆ 文末表現に注目しながら読むと「しごと」と「つくり」がみつけられるという課題解決への見通しをもたせる。(視点二)

(視点二)

四 「しごと」と「つくり」をみつけ、まとめる。

三十三分

○ 「しごと」について書いてある文にサイドラインを引かせる。

○ 「おもいもの」の例を話し合ったり、「つり上げる」の意味を動作化も交えて確かめさせたりする。

○ 「つくり」について書いてある言葉に短くサイドラインを引かせる。

○ 叙述と挿絵の対応や叙述の動作化から「つくり」についての理解を深める。

○ 「しごと」と「つくり」のつながりを明らかにし、「そのために」の役割を確認する。

○ 表を基に「そのために」を使って「しごと」と「つくり」を図鑑にまとめさせる。

★ 動作化させたり、叙述と挿絵を対応させたりしながら「しごと」と「つくり」のつながりを確認できるようにする。

☆ 「しごと」と「つくり」や「そのために」の役割についてペアで相談したり全体で話し合ったりする。(視点二)

(視点二)

■ クレーン車の「しごと」と「つくり」をとらえることができる。(視点三)

(視点三)

五 課題についてまとめる。

二分

○ クレーン車の「しごと」と「つくり」について発表させる。

六 学習の振り返りをする。

一分

七 次時の予告をする。

一分

★ 個人課題に関わって ☆ 共通課題に関わって

■ 評価(評価方法) ○ 指導の手立て(留意点)